

異年齢（たてわり）保育で育まれるもの

私達の法人では異年齢での生活を大切に保育しています。

人間にとって異年齢で過ごすのは当たり前のことですが、この時期の子ども達にとっては、とても大きな意味があります。

異年齢保育からさまざまな成長や姿が見られますが、その中でも特に注目すべき4つの成長・姿をご紹介します。

① **学びの機会の拡大**：異なる年齢の子ども達が一緒に過ごすことで、大きい子が小さい子の手伝いをしたり、手本となります。小さい子も憧れから目標や将来の自分の姿を見据えるようになります。
また年齢や能力に関係なく、異なる視点や経験から学び合うことも出来ます。

② **社会的スキルの発達**：協力、コミュニケーション、共感などの社会的スキルが自然に育まれます。例えば、年上の子どもは責任感やリーダーシップを養い、年下の子どもは協力やコミュニケーションのスキルを自然と身につけることが出来ます。

③ **自己認識と自己肯定感の促し**：一人ひとりが違ってOKという機会が多いため、自分と他者を比較するという感覚が少ないのです。そのため自己認識（自分のことを感情抜きにして客観的に状態がわかる）や自己肯定感が育まれやすくなります。年齢に関係なく、それぞれの個性や能力が尊重される環境が提供されます。

④ **学びの多様性と柔軟性**：年齢や発達段階に応じて様々な活動の機会を設けているため、子ども達の興味に合わせた柔軟な学びの環境を作ることが出来ます。これにより、子ども達が自分のペースで成長し、自己実現する機会が増えます。

以上は一般的な考察ですが、子ども達がより良く楽しく活動出来るよう、園では多岐にわたって保育内容を考えています。

今の時代はさまざまなことがシステム化され、子ども達が大人になる頃は私達の想像をはるかに越えた社会になっているかもしれません。

ただどんな時代や社会になっても【**人との関わりやコミュニケーション、人間関係の構築**】は、とても重要なことですよね。

異年齢保育は特に友達との関わりから、大切なことを学ぶ機会が得られるので、今後も充実させていきます。私達大人も皆で子どもの“育ち”を支えていきましょう。

（本間）

